

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300503		
法人名	株式会社 人輝		
事業所名	グループホーム 輝たむら		
所在地	郡山市田村町金屋字上川原269-1		
自己評価作成日	令和6年4月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク		
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地		
訪問調査日	令和6年5月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々、ご利用者様に笑顔になっていただけるよう、利用者の思いや喜びを大切に、家族様・地域の方々、共に働くスタッフとの交流を大切に支援していきます。
 手作りの食事を提供し、日々のレクリエーションと併せ、季節行事やドライブ、リクエストのあった場所への外出など生活のパートナーとして生活して頂いております。利用者様自身が住み慣れた地域で、なじみのスタッフが支援を行うことで、安心して生活が出来るよう介護していきます。感染症予防の為、手指消毒の徹底とテーブル、手すり、ドアノブ等の消毒を徹底して行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスの意義と役割を理解し、事業所の持っているノウハウを地域の方に還元できるよう様々な取り組みを行っている。
 家族の都合や要望、職員の負担の軽減化など、これまでの考え方にとらわれない柔軟な発想を受け入れることで、利用者の立場に立ったケアの質の向上が図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を念頭に置き、日々の支援を行っている。 朝礼時に理念を唱和していたが、現在コロナ感染防止のため、職員が集まっての朝礼は行っていない。	全職員で事業所の理念を理解し、新しい取り組みやチームワークを大切にしている。利用者の状況変化や社会状況について情報共有を行い、必要に応じて理念を見直し、利用者目線のケアができるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	運営推進会議の際に町会長や包括支援センターの方々と交流を交わしていたが、コロナ感染防止の為、会議が開催出来ておらず、交流も出来ていない。 近所の小学校・中学校の行事や地区の文化祭に参加する予定も感染防止の観点から実施出来ていない。	町内の集会所で行っている、いきいき百歳体操の場所を集会所から事業所に移してもらい、地域の役に立とうとしている。以前は近隣の中学生の職場体験の要望があり、中学生の職場体験を行っている。ボランティアの訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いきいき100歳体操の場を集会所から施設へと移行出来ればと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	1回/2ヶ月 行いヒヤリや事故について色々な意見を交わしたり、地区の行事等に情報を教えて頂きサービスの向上に活かしている。(現在はコロナ感染防止の為、会議を開催出来ていない)	町内行事予定を教えてもらったり、事業所で起きた事故やヒヤリハットについて第三者からの意見や家族目線での意見を聞くことができている。事業所からの報告だけでなく、双方向の会議になるよう、意見交換の場を設けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時に取っている。 提出物も郵送ではなく、持参し関わりをもつようにしている。	市から、介護保険最新情報、災害対策、研修情報、各種感染情報などを受け取っている。提出物は窓口を持参し、担当職員と関わりを持つ心がけ、必要に応じ相談した際はきちんと対応して貰っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に該当する行為は見られていない。 委員会でアンケートを実施したり現状の確認を行っている。	身体拘束の様々について職員全員で考え、共通の理解ができるようにしている。身体拘束について学んだことを、委員会で話しを整理し、定期的に勉強会開催、職員間で情報を共有し、拘束のないケアをしている。	
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に積極的に参加し学ぶ機会を設けている。	高齢者虐待防止関連法に関する研修会に参加し、学んできた事を支援の質の向上させることに繋げている。管理者は職員の疲労やストレスが、利用者へのケアに影響しないよう職員と意思疎通を図り、虐待の防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象となる方には弁護士や後見人に対応している。 外部研修に参加しフィードバック研修を行うことで職員全員に周知していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約内容や重要事項を分かりやすく説明し、理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や口頭にて要望があると、日誌や生活記録シートにて申し送りしている。	面会時や電話で話した際に、その都度心配事や困っている事がないかを聞くようにしている。面会時間内に来るのが難しいとの意見に、面会時間前や時間を過ぎての面会にも対応するようにしている。意見や要望をケアの質の向上に役立てようとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	1回/1ヶ月のミーティングや個別面談等にて意見を吸い上げ改善出来る事や要望は聞くようにしている。	業務の平準化についての意見があり、シフト作成時に業務の割振りを入れ込んで対応した結果、ケアの質の向上に役立っている。職員から資格取得や研修会への参加の要望があったときは、できるだけ応えるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの働ける条件等を考慮し勤務体制を組んでいる。 自己調査後も実施している。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務の中でベテラン職員が新人職員に対して指導している。 外部研修や内部研修に参加しその都度復命書を上げ、職員会議時にフィードバック研修を実施している。	管理者・運営者は、職員の質の確保・向上に向けた育成が不可欠であることを理解している。外部研修への積極的参加と内部研修でのフォローバック研修の実施により、職員全体のレベルアップを図り、介護記録の書き方等に活かされている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	内部研修に参加していただいたり、積極的に外部研修にも参加していたが、コロナ感染防止の為、現在は外部・内部研修を行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調時に本人の思いを傾聴し安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	適宜思いを傾聴し、要望を把握出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族様の思いを傾聴したり、心身の状態の確認を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事の準備や日々の役割を持つことで、生活のパートナーとして関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、通院時、必要時には電話連絡したりして関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策の為、外食レクは出来ていないがお花見や鯉のぼりの見学や紅葉ドライブなどのドライブレクを行い、思い出の地に行くなどして支援している。	利用者の希望で以前勤めていた職場に出かけたり、馴染みの場所への外食やドライブで花見や紅葉狩りをしている。長期間面会のない方には、手紙や電話で連絡を取り、これまでの関係が継続できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事や日々のレクリエーションを一緒にする事により交流を図ってる。 利用者様同士のトラブル時は都度、席の配慮を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も家族様の相談等あれば相談に乗ったり、アドバイスをしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	本人との会話や利用者様同士での会話で思いや考えをくみ取り、定期的なモニタリングやカンファレンス、ケアプラン作成時に検討している。会話が困難な方は表情や行動から意思をくみ取っている。	入浴時や入床時等に思いを聞き、利用者同士の悩みなどには、話を傾聴することで気分を落ち着けてもらっている。家族から好きなことや物について聞き、本人の様子や言動から希望や要望をくみ取り希望に沿うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の中や家族面会時、カンファレンスの開催時に情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態や過ごし方は日々の関わりで把握し、一人一人の残存昨日を活かすように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時に家族様の意向を聞き、職員の気づき等をカンファレンス時に話し合い話し合いを行い、介護計画を作成している。定期的なモニタリングも行い状態変化時には、都度見直ししている。	利用者の状況を把握し、出来ることは声かけ促し、身体機能の維持に努めながら、生活の中で役割をもってもらえる計画づくりをしている利用者の変化に注意しながら見守り、状況に応じて計画に反映できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等を記録に残し、定期的に行っているカンファレンスで見直し等行っている。口頭でも申し送る事で、職員間の周知徹底を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族様の譲許に合わせ、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症対策の為、買い物等には出掛けられていない。近所への買い物や地域行事の参加をしていきたいと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医に家族様対応にて通院し連携を図っている。 家族様の対応が難しい方には訪問診療を利用されたり、職員が同行し通院を行っている。	定期往診の主治医・歯科往診の医師とは、往診時や電話、メールでの相談にも親身に対応して貰っている。受信結果を電話等で家族に伝え情報の共有を図っている。必要に応じ、検査結果など主治医から家族に説明して貰っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1回/週の医療連携看護の来訪あり、体調管理の相談が来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院時シートを作成し病院の相談員やご家族様と連絡を取っている。 退院前には病院を訪問し、病棟看護師より状態報告と退院後のケアの留意点を確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを行える事を契約時に説明している。 医療連携看護が1回/週来訪し状態を確認し、終末期を安心して迎えられるよう看取りの介護計画を作成し、日々の状態を確認しながら支援している。	終末期においては、家族が少しでも長く利用者として過ごせるよう宿泊対応なども行っている。重度化や終末期に対応するため、職員は外部研修に参加し、利用者が慣れ親しんだ場所で穏やかに最期を迎えられるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命を受講しAEDの使用方を学ぶ予定だったが、感染症対策の為、受講出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、全職員が避難誘導の流れを把握し、消火器の使い方を習い、実演し使い方を習得している。	消防署員、消防設備会社の方に参加して貰い、訓練を行っている。訓練後、消防署員から避難時の動線確保や倒れやすい雪かきスコップ等を置かないようにとの助言を貰っている。職員は年に一度以上訓練に参加できるよう勤務や時間を調整している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への声かけの際の言葉使いや声の大きさ、声のトーンに気をつけている。虐待防止委員会やカンファレンス時にも、日々の対応について確認を行っている。	人生の先輩として尊重し、プライバシーに配慮することの大切さを伝え、職員には家族や自分に置き換え、相手の気持ちに立った接し方をするよう伝えている。援助が必要なときでも、意向を確認し自己決定して貰うことを基本にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりで話やすい雰囲気作りに努めており、本人の思いをケアプランに反映させ実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のペースを尊重し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時にご本人に衣類を選んで頂いたり、定期的に来所する訪問理美容の利用によりパーマやカラーを楽しまれたり、朝お化粧される方や髭剃りを行い身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	おやつレク時や昼食時にホットプレートを使用し一緒に食事やおやつ作りを行っている。食事時は利用者様、職員共に同じ場所で同じ時間に食事をしている。(現在は感染防止の為、離れて食事をしている。)	行事や誕生日会などのメニューは職員が考え、一人ひとりのペースで食事ができるようにしている。常食、一口大、刻み等、食べる力に合わせて提供している。職員も利用者と同じものを一緒に味わいながら食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、水分提供時に摂取量を記録シートに記入しチェックし、都度確認しながら提供している。スプーン、フォーク、食器の種類や大きさも個々に合わせたものを準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを行っている。また夜間は義歯を外し、洗浄剤につけるなどして、残存能力に合わせた介助を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて回数や状態を把握し対応している。	トイレでの排泄を基本とし、失禁を防ぐために、こまめな声かけ・トイレ誘導をしている。入居時オムツだった方を定時でトイレ誘導し、オムツからから布パンツになり、日中は布パンツにパッド使用している方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服薬で対応しているが、出ない方には乳製品をおやつ時に提供したり、運動をしていただく等の対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望と体調に合わせ、季節の菖蒲湯やゆず湯、寒い季節は乾燥に合わせ保湿効果のある入浴剤を使用等している。また、入りたくない方や体調不良時はシャワー浴等に切り替えて対応している。	これまでの生活習慣では就寝前入浴の方でも、日中の日の光を感じ、明るく、温かい入浴に喜んで貰っている。嫌がる方には、曜日や時間をずらしたり、入浴剤等使用し対応している。着脱時の利用者の羞恥心に配慮した見守りをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠時には飲み物を提供したり話を傾聴したりしている。一人で寂しい時などは畳スペースに布団を移動しスタッフの近くで休んで頂く当している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認と家族様から受診時の申し送りを受け、変更点や留意点を確認し、日誌や連絡ノートで周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々、歌を歌ったり、身体を動かしたりのリクに加え洗濯物を干したり、畳んだり個々の残存能力に合わせた役割を行って頂いている。おやつレクや外食レク、ドライブにより輝本転換や季節感を味わって頂ける様支援している。個々の嗜好品も把握し、食事時やおやつ時に提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策にて外出の機会は減っているが、季節ごとの行事(お花見、バラ園、案山子ロード、田んぼアート、紅葉)ドライブに出掛けたり、プランターに野菜や花を植え育て、後に収穫し味見する事を楽しみにしている。	歩行状態など利用者の個々の状態に合わせ適切な対応をしながら、積極的に外に出る機会を設けるようにしている。外に出る事で新鮮な空気を吸い、気分転換を図り、光や風を肌に受け季節を感じて貰うようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設でお預かりしている。 欲しい物は一緒に買い物に行ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望がある際は電話等にて対応している。 家族や本人の希望にて携帯電話を持参している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁飾りや花等にて季節感を出している。また、行事の写真を掲示し廊下を歩かれる際、写真を眺めたり、利用者様同士の会話のネタにもなっている。食堂兼フロアには大きな窓から光が差し込み季節感を感じられるようになっている。	共有空間のフロアや居室、畳スペースなど、その日の気分で好きな場所で過ごしている。歩行や移動のための動線を確保するために、廊下に手すり、ドアの近くに物を置かないようにしている。共有部分の消毒・定期的な換気を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じフロアで一緒に歌を歌ったり、お茶を飲みながらおしゃべりしたりしている。 畳スペースにて休まれたりする方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	居室は全室個室であり、自宅から本人の大切にしていた家具を持ち込んだり、家族様の写真を飾ったりしている。	ベッドや枕の高さの調整や動線時の家具の配置を入居前の自宅と同じ状態に近づけるようにしている。清掃や衣替えは利用者と一緒に居室担当職員や家族が行って、整理整頓し快適な毎日が送れるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室等を分かりやすいように掲示している。廊下と会談に手すりを付け安産に歩行できるようにしている。		